

にじだより

NIJIDAYORI

別府リハビリテーションセンター
障害者支援施設にじ 広報誌

第20号

2023年1月



- ▶ 新年の挨拶
- ▶ 令和5年スタート～初詣に行って来ました～
- ▶ 革工芸訓練 引継ぎ
- ▶ アール・ブリュット芽ばえ展

謹賀新年



温かい陽ざしに包まれて迎えた新年 みなさまはいかがお過ごしだったでしょうか？

今年は卯年

その姿から「飛躍」さらには新しいことに挑戦するのに最適な年と言われているそうです
大分県では“宇宙港”が注目と期待を集めており 年内の人工衛星打ち上げ計画が一步前進しました
月のウサギに会えるのもそう遠くはないかもしれませんね
今日に至るまでには多くの方々のたゆまぬ努力や
時間やエネルギーが注がれてきたことでしょう

利用者の方々の目標達成も決して派手ではない人知れない訓練が
積み重なった結果です
ぴょんと一足飛びにはいかない中で努力が続けられています
そんな利用者の方々を私たちは全力で支援し「飛躍」を支える
年にしていきたいと思います



本年もどうぞよろしくお願いいたします

にじスタッフ一同



令和5年スタート～初詣に行って来ました～

令和5年1月5日、別府市内にある神社に初詣に行きました。

初詣は、「一年でいちばんはじめに神社やお寺にお参りに行き、新しい一年の幸せを祈願する」とことと
言われています。

にじの利用者様は、病気や事故により身体の障がいが残っている方がいます。砂利道や坂道を歩くこと、
社殿への階段を上ることが大変な方、お賽銭をお財布から出すのに片手で苦労される方もいました。
それでも、神社の境内まで上がり、皆様お参りをすることができました！

「家族の幸せ」「みんなの幸せ」「体がよくなりますように」「就職できますように」などそれぞれの願いを
込めて、神社の境内で手を合わせました。おみくじをひき、お守りを購入して清々しい新春の一日を過
すことができました。

昨年は、困難なことが多かった一年。2023年は皆様の願いが叶いますように。



《願いが叶いますように・・・》



《おみくじは大吉でした！》



《お守りどれにしようかな？》

革工芸訓練、引継ぎ

障害者支援施設にじでは、長年の間実施されている革工芸の訓練があります。
今回は革工芸を担当している車椅子ユーザーAさんと右片麻痺の障害があるBさんの特集です！



《 I さん 》

約50年前、事故で頸髄を損傷し四肢麻痺、車いすユーザーとなった I さん。
長きに渡り、「にじ」で革工芸訓練の指導をメインに勤務されています。
そんな I さん、退職まで残り数ヶ月となりました。今は「にじ」で革工芸の指導を
しながら、後進の育成に取り組まれております。
I さんは「にじ」利用者さんにとっては、障害を持って生きていく大先輩でもあり、
ピアカウンセリングなども行っていました。
I さんだからこそ、たくさんのことを伝えられたと思います。

令和4年4月に入職したKさんが I さんの後継者です！

Kさんは、病気により右上下肢の麻痺と言語の障害が残りました。
Kさんは利用者として「にじ」で訓練に取り組み、革工芸に出会いました。
もともとモノづくりがお好きだったKさんですが、革工芸の腕を磨かれていき、
「革工芸を教える仕事をしたい」とそんな思いが芽生え、今の道が決まりました。
Kさんは誰よりも早く出勤し、訓練準備や訓練室の整理整頓をしています。
また失語症ですが、利用者様の名前が呼べるようにと、名前にフリガナをふる
など工夫をされています。



《 K さん 》



今回 I さんとKさんの特集を通して、ご自身の障害を
受け入れ「今」やるべきことをコツコツと行う大切さを私たち
も学んでいます。

「にじ」で長年、訓練として実施されている「革工芸」が引き
継がれていきます。I さんの退職は寂しい限りですが、
I さんが繋げた「にじ」革工芸のバトンは次世代を担う
Kさんへと今、渡されていきます！

そのバトンがまた利用者様の社会復帰に向けた支援に
繋がっていきます！

別府市アール・ブリュットの芽ばえ展

にじでは毎年、アール・ブリュットの芽ばえ展に多くの作品を出品しています。

アール・ブリュットの芽ばえ展は、芸術の鑑賞や創造を通して、障害のある人の日常生活および社会生活を豊かなものとする、また障害のある人とない人の相互理解を促進するために実施されています。

出展した作品はにじの訓練の中で取り組まれている手芸や革工芸、特技を生かした絵画などです。

後遺症で動きにくくなった手を補助手として使用したり、利き手交換を行い、片手で作業することもあります。

作品の出来栄を左右する正確な作業には、集中力や注意力、視空間認知能力を要します。

また出品期日に間に合うよう段取り良く取り組む遂行機能や、うまくいかなかった時には、問題解決に向けて自身で対処する応用力(思考の柔軟性)も求められます。

そして作品が完成した際の達成感を経て、少しずつ難易度を上げて行きます。

これらの要素は作品作りにとどまらず、社会復帰にむけてステップアップしていくにじでの支援に共通する部分が多くあります。

展示会に足を運び利用者同士で喜び分かち合い、社会復帰を目指す活力となりました！



《展示会へ行行って来ました！》



特技を生かして、
素敵な作品ができました
この世に2つとない、
オリジナルの作品です！

ご相談・ご質問
お待ちしております！
入所担当：小野



【にじ入所の対象となる方】

社会復帰を目標とされる回復期リハビリテーション病棟を退院された方や地域で生活されている方で

- 18～65歳くらいまでの方
- おおむねトイレが自立されている方
- 常時医療行為が必要のない方
- 集団生活が出来る方
- 障害者手帳をお持ちの方、または申請予定の方
- (手帳をお持ちでない方もお気軽にお問合せください)

社会福祉法人 農協共済
別府リハビリテーションセンター
障害者支援施設にじ

〒874-8611 大分県別府市鶴見1026-10
TEL：0977-67-1716 FAX：0977-67-8576
URL：<https://brc.or.jp>

